



15春闘を積極的に闘おう！

書記長 林 繁 行

支部2015春闘討論集会は、1月17日～18日の両日、神戸市立セミナーハウスにおいて、中央本部・大野副委員長を来賓に迎え、総勢80名の参加で開催されました。

冒頭、山元執行委員長のあいさつの後、大野中央副委員長からは中央本部報告と政治・経済状況を始めとする15春闘にあたっての考え方等が提起されました。

続いて、林書記長から、賃上げを含む15春闘の諸要求、具体的闘争方針と諸日程、争議の早期解決、春闘カンパ等の春闘方針が提案されました。新分会紹介では、日東陸運分会、はやと大阪分会が紹介されました。

分散会による討論では、①格差社会の現状と労働運動 ②組織強化、拡大 ③平和問題の3点を中心に議論しました。時間オーバーの班も出たほど、各班で活発な意

見が交わされました。その後、各分散会のまとめが報告され1日目を終了しました。

2日目は、各部会の春闘討論集会のまとめが報告され、その後、全体討論に移りました。

討論では、中央本部提案の賃上げ要求額2万円について、その根拠となる“認可料金”の復活や賃金制度のあり方などについて質疑応答がなされました。また、インターバル規制、海コン・大型車両の通行規制、65歳定年延長に関する支部方針、組織強化拡大について、あるいは、ホームページの活用には専門的な知識をもつ人材の確保なくしては維持が困難であるなどの意見が出されました。

春闘方針まとめ

休憩を挟んで執行委員会が開催され、以下のまとめが確認されま

した。

①中央本部の基本給2万円の確認と獲得額のアップ ②アベノミクスによる大企業優遇政策に反対し、産別・業種別の結集と運賃・料金の引上げ、産別運動の重視、62歳定年延長の確立 ③アメリカ主導のTPP加盟反対、橋下維新の特区構想反対、大企業と中小企業の格差是正、非正規労働者と正規労働者の格差是正、労働法制の改悪反対 ④組合員数1000人を目標とする組織拡大 ⑤反動政策と対峙する国民的諸課題 ⑥集団的自衛権と関連法案の「改正」反対、日米安保条約の破棄 ⑦普天間基地の即時返還、辺野古新基地建設反対、脱原発・再稼働反対 ⑧統一自治体選挙勝利 ⑨春闘カンパ1人3000円。

最後に、山元執行委員長の力強い「団結がんばろう」で2日間の日程を終了しました。

“オール沖縄”に学ぼう！

執行委員

小林 勝彦

昨年12月14日～20日の1週間、田村執行委員とともに、名護市辺野古の海上ヘリ基地建設反対闘争に参加しました。

寄書きをフェンスにくくる

衆議院選の投票を終えて、昼頃に沖縄に着き、キャンプシュワブは日曜休日のため、辺野古浜のテント村に直行しました。そこで阻止闘争の状況の説明を受け、大阪から持参した、組合員の応援メッセージが書かれた寄書き（バナー）を基地フェンスに取り付け（3日後には撤去されてしまった！）、夕方には宿舎に向かいました。



夜、選挙速報を見ていて、関西では与党圧勝ムードで落胆している中、反対協推薦で、勝利した与那嶺デニー候補の事務所へ招かれました。事務所は既にお祭りムードで、初対面の私たちを暖かく迎えて頂き、共に勝利を祝いました。

座り込みに参加

15日の朝、辺野古テント村でのミーティングの後、キャンプシュワブゲート前テントにて、責任者の山城博治氏にあいさつし、座り込みをしている仲間の皆さんに、

全港湾大阪支部として、名護市長選、県知事選、名護市議選の勝利の波を地元関西で生かせなかったことの謝罪と、この悔しさを今後の反戦平和運動への更なる糧にして行く決意を表明し、座り込みに参加しました。

“オール沖縄”を体感

16日、ゲート前テントに衆院選の小選挙区で当選した4名の方が結集され、当選のお礼と今後の決意表明を行われました。

政党が異なる議員が集い、各々の勝利を全て仲間が喜び、讃えありました。まさに、“オール沖縄”を目の当たりにし、この場に同席



できた幸運に感謝しました。

午後からは、田村執行委員と共に、初めて高江のテントに向かいました。高江は、辺野古からさらに北へ、車で1時間以上の所にあり、車の駐車スペースもない山の中に位置します。辺野古と比べるとテントも人が少なく、寂しささえ感じました。

しかし、ここも辺野古同様、米軍のヘリポート建設のために自然が壊され、事件・事故の危険にさらされていることを忘れてはなりません。

カヌーで海上行動

17～19日は、ヘトヘトになりながら、終日、辺野古海上での阻止行動に参加しました。夜の食事では、仲間の皆さんは、ヘリ基地建設を絶対に阻止する！絶対に出来る！と語っていましたが、その姿は、自信に満ちあふれていました。

この自信の裏付けは、名護市長選を始め、全ての選挙に勝ってきた“オール沖縄”の民意があるからこそだと感じました。

辺野古に結集している仲間たちは、まさに思想信条の違いを超え、普段あまり交わることのない労組なども含め、平和を願い、基地建設阻止という共通の目的のために集まった仲間たちであることを、強く感じさせられました。

沖縄に学び、共に闘おう

最終日の20日朝のミーティングでは、1週間お世話になったお礼と、今後、私たちが組織の中で現地の様子を伝えていく決意を表明しました。

戦後70年を迎え、ますます戦争体験者が少なくなっています。未だに米軍基地の大部分を沖縄に押しつけていることを、私たちやマトンチューは深く反省し、1人ひとりが声をあげ、平和のために行動していかなければなりません。全港湾の仲間が1人でも多くの人に伝え行動していくこと、オール沖縄に学び、闘っていかなければならないと思います。

はじめての辺野古闘争

執行委員 田村吉雄

小林書記次長と共に、初めて、辺野古の新基地建設反対行動に参加しました。

闘う陣形が整う

16日には、衆院選で「新基地建設反対！」を訴えて小選挙区で当選した4名が辺野古を訪れました。4名の議員はゲート前で座り込んでいる人たちに、改めて基地建設阻止の決意を表明し、仲間たちは歓喜に沸き、4名を盛大に祝福しました。私も、“オール沖縄”の歴史的な場面に参加できたことに感激しました。



全国的には自・公の圧勝という残念な結果になりましたが、4名の新国会議員と11月に新知事になった翁長知事、さらに2期目の稲嶺名護市長らが結束して、辺野古現地闘争を担う人々と連携しつつ、基地建設阻止闘争を闘う陣形が整ったと言えます。

カヌーも初体験

17日からは海上での抗議行動に参加しました。

カヌーに乗るのは初めての経験で不安でした。海に出る前に、海上での反対行動を約1年間続けて

きた辺野古ぶるーカヌー隊の指導を受け、オールの持ち方から救助を求める際の合図の方法、海上では常に2人で1組になる（バディという）こと等を学びました。

その後2班に分かれ、海へ漕ぎ出しました。海上でも、前後進、方向転換、牽引作業、転覆時の対処法等の訓練を受けました。



18日も朝から海上行動に参加しました。この日は、辺野古崎を目指して出発しました。途中、米兵の水泳訓練を目にしながら、大浦湾まで出ましたが、ここでは天候が一変し、風と波が強まり、横波を受けて転覆するカヌーも出ました。私も危険を感じて、救助の合図を出し、仲間の船に救助され、浜まで曳航してもらいました。

船との連携作業、転覆者の救援、船への曳航の仕方等、危険な場面もありましたが、実戦的な練習になりました。

夜は、全港湾沖縄地本の方々と有意義な交流会を楽しみました。

前日より遠くに出る

19日も朝から海上行動に参加しました。この日も向かい風が強く波も高い中、辺野古崎へ向かいカ

ヌーを漕ぎ出します。大浦湾を出ると追い風だったため、全員が、そのまま瀬高浜を目指します。途中、横波が高く危険なときもありましたが、班とバディで連絡を取りあいながら、瀬高浜まで漕ぎ切りました。

浜で休憩の後、船で辺野古崎まで曳航してもらいました。漕いでいる時は、身体は温まっていますが、曳航中は波に揺さぶられ、飛沫を全身に受け、身体が冷えました。その後の、辺野古崎から浜までは自力で漕いで戻りました。

浜でカヌーを片付けた後は、差し入れのカレーやチムシンジ（肝煎じ汁）をご馳走になりました。疲れて冷えた身体には、温かさがしみ込みました。

最後に、ゲート前にて、1週間のお礼、感想、大阪に戻ってからの決意などを述べて、辺野古の浜ともお別れとなりました。

闘いにそが切り開く

1週間の抗議行動で、政府の強権に抵抗することによってはじめに活路が切り開かれる、また大衆運動を続けることに運動は広がることを確信しました。地元でも、もっと行動し、学習し、怒っていきましょう。

今回の活動経験は、大阪支部の組合員であったからこそできたものであり、支部の全組合員、職場の皆様へ感謝致します。ありがとうございました。

トラック産業を考える労使セミナー開催

車両部会副部長

陣内恒治

「第6回トラック産業を考える労使セミナー」が2月1日、道頓堀ホテルで、企業36名、労働組合関係49名、講師2名の参加者87名で開催されました。



最初に津田日出男代表が、この懇話会の意義と目的でもある中小企業が労使一体となり、産業構造を変えることが不可欠とあいさつされました。

講演では、行政書士たかはま事務所の所長である高濱昌次氏から「事故ゼロ実現に向けて、安全を作る運転習慣の形成について」をお話いただきました。



事故が起きる仕組みとその対策や事故の過半が安全運転義務違反が原因であること、映像で事故発

生までの運転手の心理状況から分析して、事故の要因はその前からあり、あせりや苛立ちから安全運転の認識が減少することで一時不停止や車間距離不足で事故を起こすことが多いのと携帯電話・スマホなど違反意識や注意不足も指摘されました。



質疑では、労側から、安全な車間距離を空けていると他車の割り込みをされて慌てることが多いとの意見がありました。また、会社の指示で時間を守るためにやむなく違反することもあるとの報告もありました。

安全な労働環境を

適正な運賃で余裕ある業務をして運転手の生活も安定しなければ事故は減らないし、結局、事故のしわ寄せは運転手にくるのだが、事故を起こせば会社の信頼も揺らぐことになる。また、運転手も免許停止などになれば、生活の破壊

につながる。労使が安全にリスクなく働ける環境づくりが大切であると話されました。

まとめとして、全日建連帯トラック支部の広瀬委員長から、この懇話会は企業が中心に意識をもち、他力本願でなく中小企業が立ち上がらないと、ただの懇話会で終わる。行政を動かし、企業も労働者も安定する社会にするために尽力しようと言えました。

懇親会では、「トラック産業の将来を考える懇話会・近畿」の目的や趣旨を説明し、懇話会の拡大を呼びかけました。



今回初めて参加した企業には、セミナーなどの学習会が必要と感じ参考になったという意見もありました。労使が共同し行政に訴える運動を関西でも前進させなければ中小企業は生き残れません。

懇話会は、行政交渉やセミナーを充実させますので、今後も労使で議論を充実させ拡大を目指します。

大阪支部ホームページ開設！

大阪支部のホームページ開設しました。

アドレスは <http://www.zenkowan-osk.org/>



QRコードはこちら